2022年6月10日(金) 山陽新聞 [第2全県]

高精度で放射線照射

川崎医大病院が装置導入

がん狙い撃ち 副作用軽減

川崎医科大付属病院（倉敷市松島）は今月から、高精度放射線治療装置「トモセラピー」による診療を始めた。がんだけを〝狙い撃ち〟できるのが特長で、臓器の機能低下や出血といった副作用を軽減。診療は保険が適用される。同病院によると、県内の医療機関での導入は初めてという。

コンピューター制御により、さまざまな角度から照射する放射線ビームの強さや形状を複雑に変化させられる装置と、体内を断層撮影するCTがセットになった医療機器。米国のメーカーが2000年代前半に開発した。

同病院の画像診断センターに設置した。全長約2・8㍍、高さ約2・5㍍。円筒部に照射装置とCTが組み込まれており、患者を乗せるベッド部分が前後に動く。照射範囲は1・3㍍で、同病院の従来機の約3倍という。導入費は約40億円。

がんの大きさや位置を診断用のCTなどで事前に把握し、照射計画を作成。治療時は、呼吸などで位置が変わるがんをトモセラピーのCTで撮影しながら、動きに合わせて放射線を照射する。ピンポイントで当て続けることができ、正常な細胞への照射を抑えられるという。

川崎医科大付属病院が導入したトモセラピー

治療は1回10～30分。当面は前立腺、頭頸部がん治療に活用し、食道、肺、子宮がんにも広げていく。遠隔転移があった場合などには保険適用されないこともある。

放射線科の勝井邦彰部長は「切除が難しい所にできたがんにも対応できる。質の高い医療を提供したい」と話している。

中四国地方では国立病院機構呉医療センター（呉市）、滝宮総合病院（香川県綾川町）など4施設が導入している。

（立田さくら）